

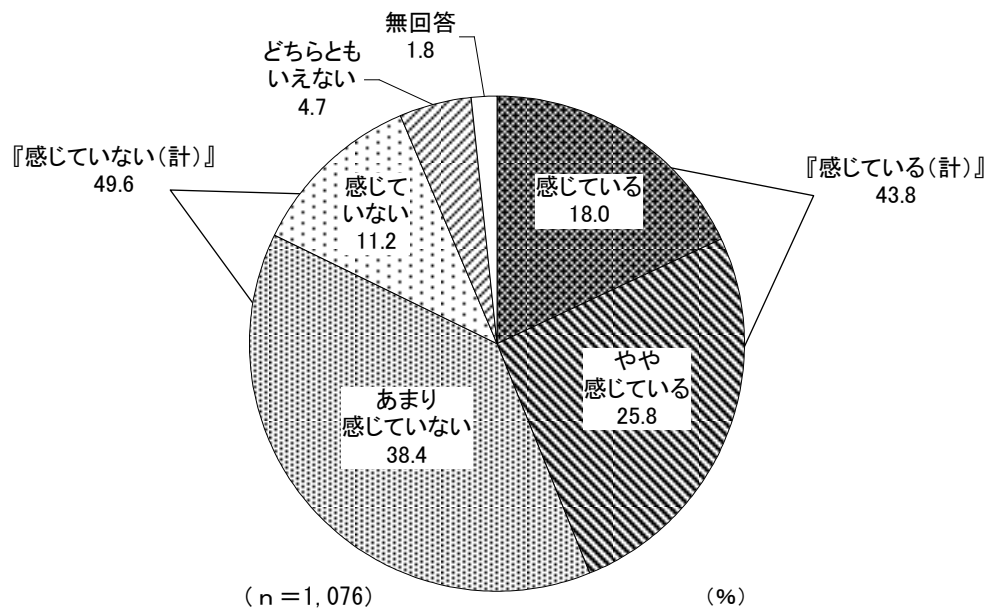
## 5. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は4割を超える

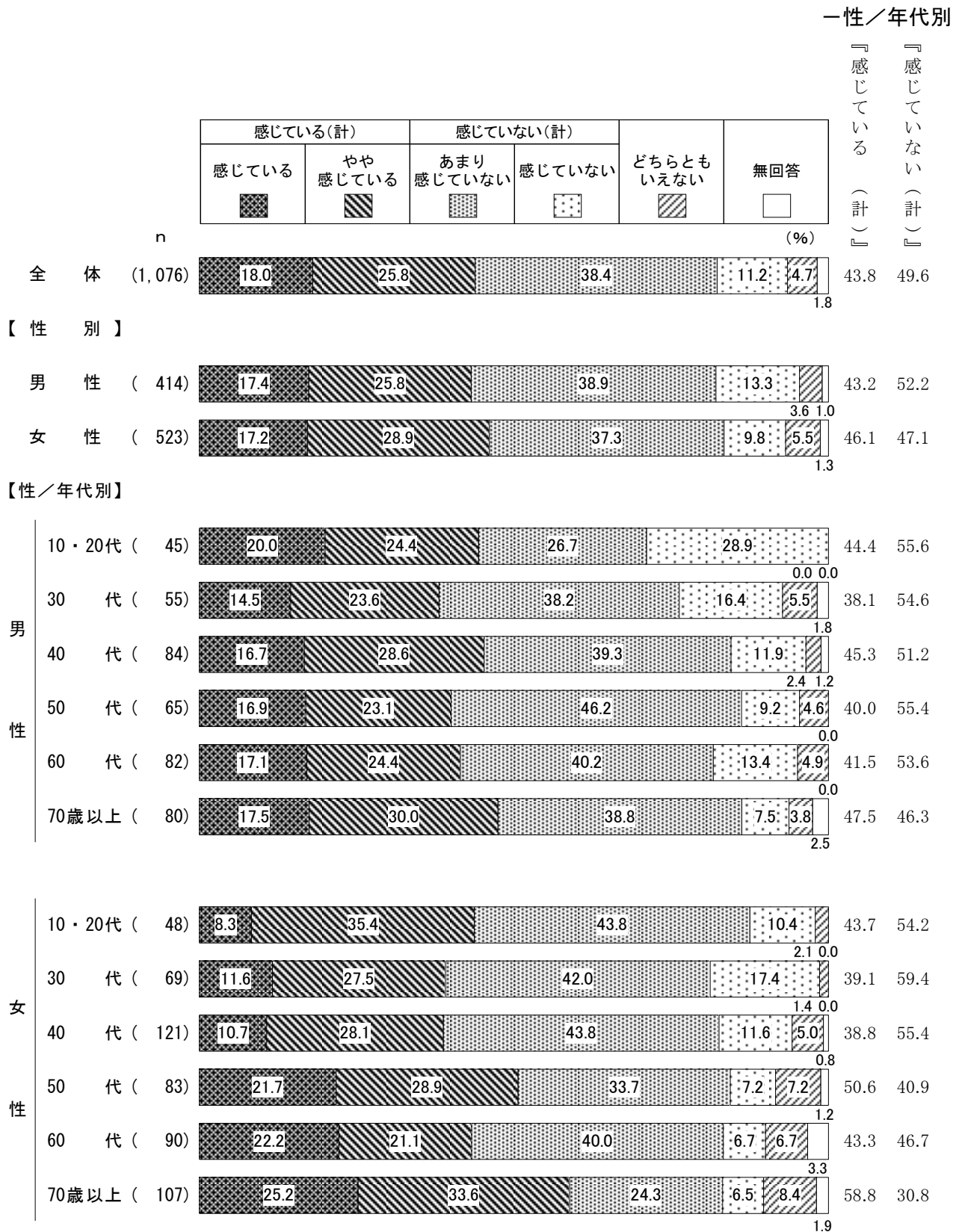
問9 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと約2年となり、準備が進んでいます。東京2020大会が身近になってきたと感じていますか。(○は1つだけ)

図5-1-1



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか聞いたところ、「感じている」(18.0%)と「やや感じている」(25.8%)を合わせた『感じている(計)』(43.8%)は4割を超えている。一方、「あまり感じている」(38.4%)と「感じていない」(11.2%)を合わせた『感じていない(計)』(49.6%)は5割となっている。(図5-1-1)

図5-1-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が身近になってきたと感じているか



性別でみると、『感じていない (計)』は男性 (52.2%) が女性 (47.1%) より5.1ポイント高くなっている。

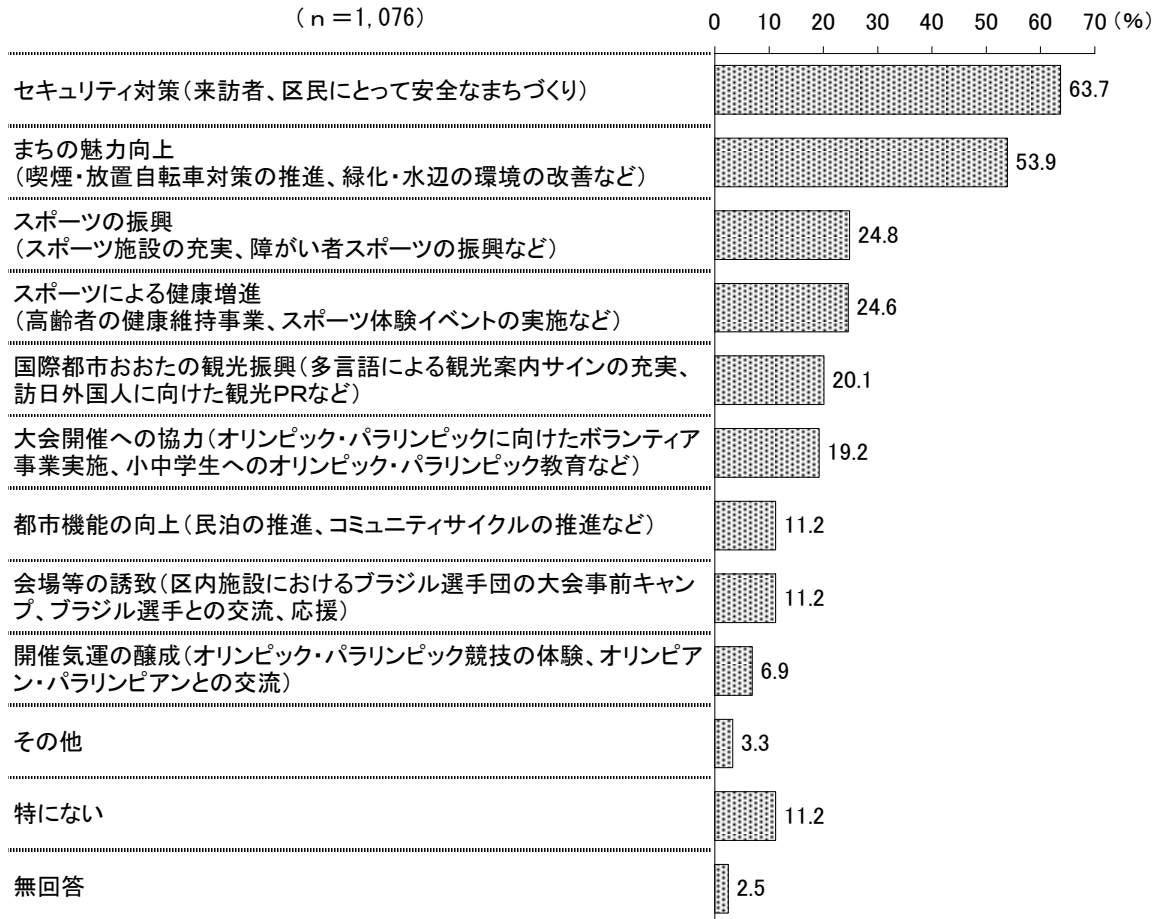
性／年代別でみると、『感じている (計)』は女性70歳以上 (58.8%) で6割近くと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は女性30代 (59.4%) で約6割と高くなっている。(図5-1-2)

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組

◇「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」が6割を超える

問10 大田区が取り組む東京オリンピック・パラリンピック推進事業の中で、期待する取組は何ですか。（〇はいくつでも）

図5-2-1



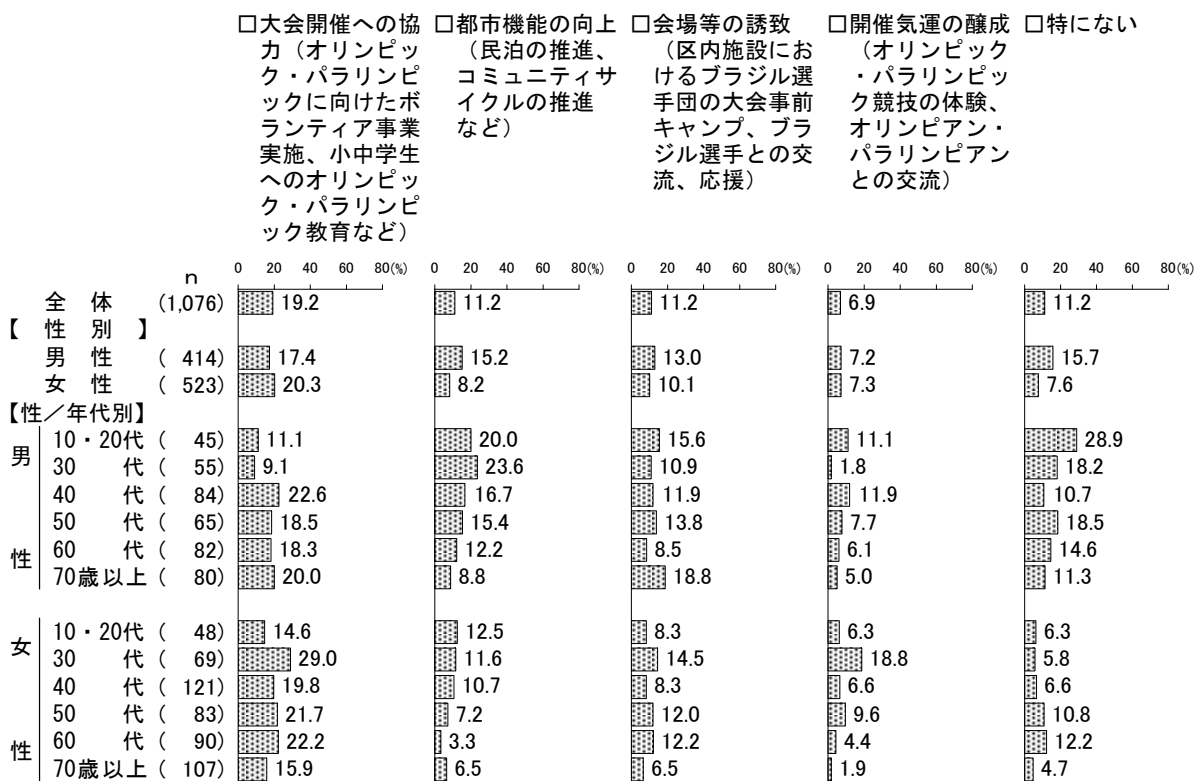
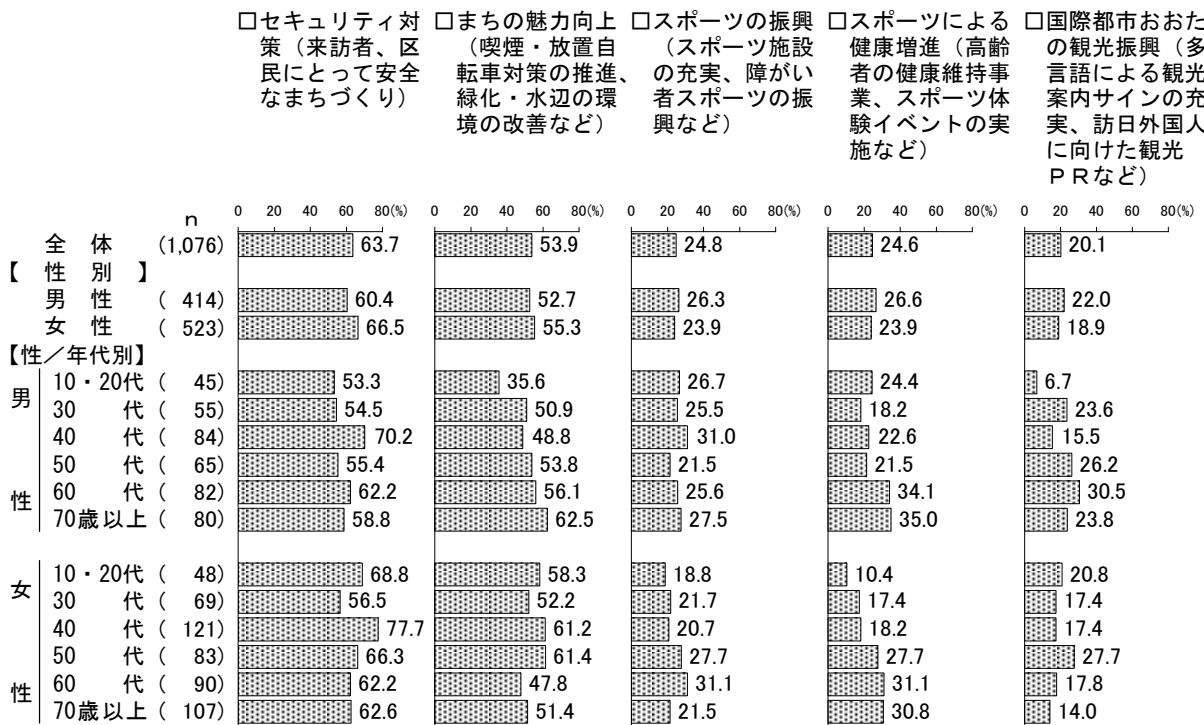
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、大田区に期待する取組を聞いたところ、「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」(63.7%)が6割を超えて最も高く、次いで「まちの魅力向上（喫煙・放置自転車対策の推進、緑化・水辺の環境の改善など）」(53.9%)、「スポーツの振興（スポーツ施設の充実、障がい者スポーツの振興など）」(24.8%)、「スポーツによる健康増進（高齢者の健康維持事業、スポーツ体験イベントの実施など）」(24.6%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「公共交通機関の混雑緩和」、「暑さ対策」などがあげられている。

(図5-2-1)

図5-2-2 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組

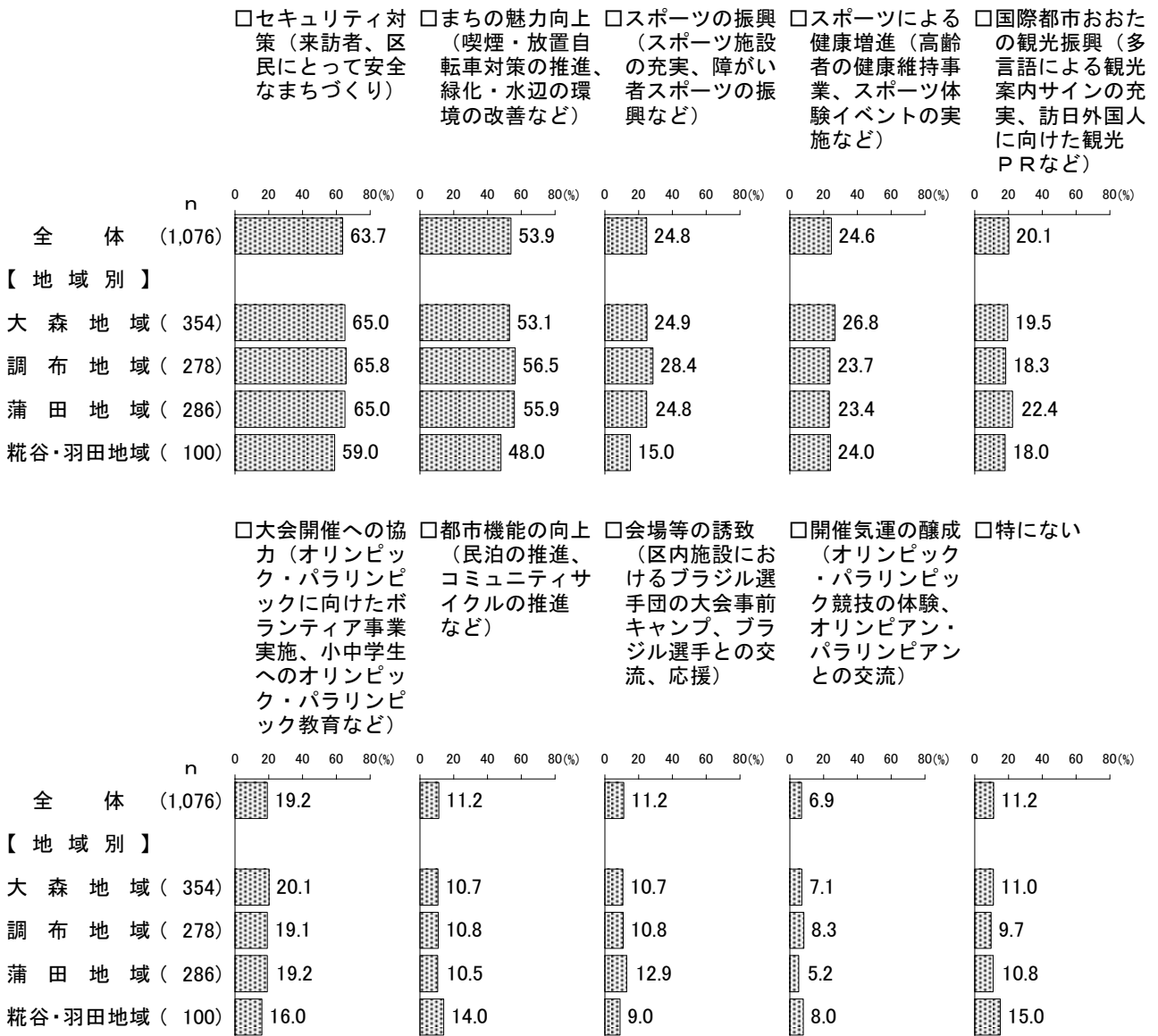
—性／年代別



性別で見ると、「都市機能の向上」は男性（15.2%）が女性（8.2%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「セキュリティ対策」は女性（66.5%）が男性（60.4%）より6.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「セキュリティ対策」は女性40代（77.7%）で8割近くと高くなっている。「まちの魅力向上」は男性70歳以上（62.5%）、女性の40代（61.2%）と50代（61.4%）で6割を超えて高くなっている。（図5-2-2）

図5-2-3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区に期待する取組—地域別



地域別で見ると、「セキュリティ対策」は糀谷・羽田地域（59.0%）を除く全ての地域で6割半ばと高くなっている。「まちの魅力向上」は調布地域（56.5%）で6割近くと高くなっている。

(図5-2-3)

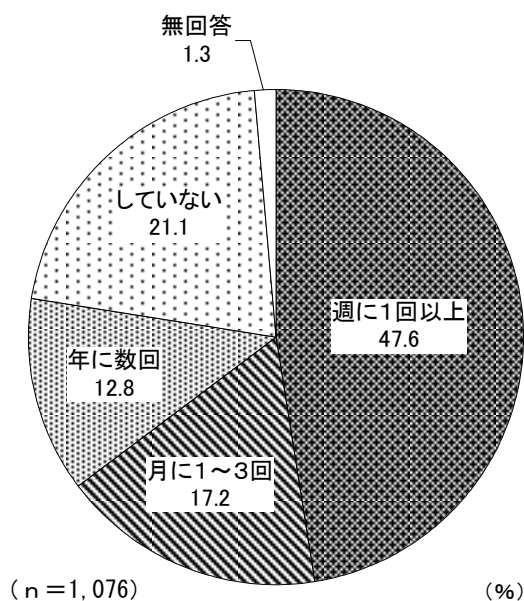
### (3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が5割近く

問11 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。

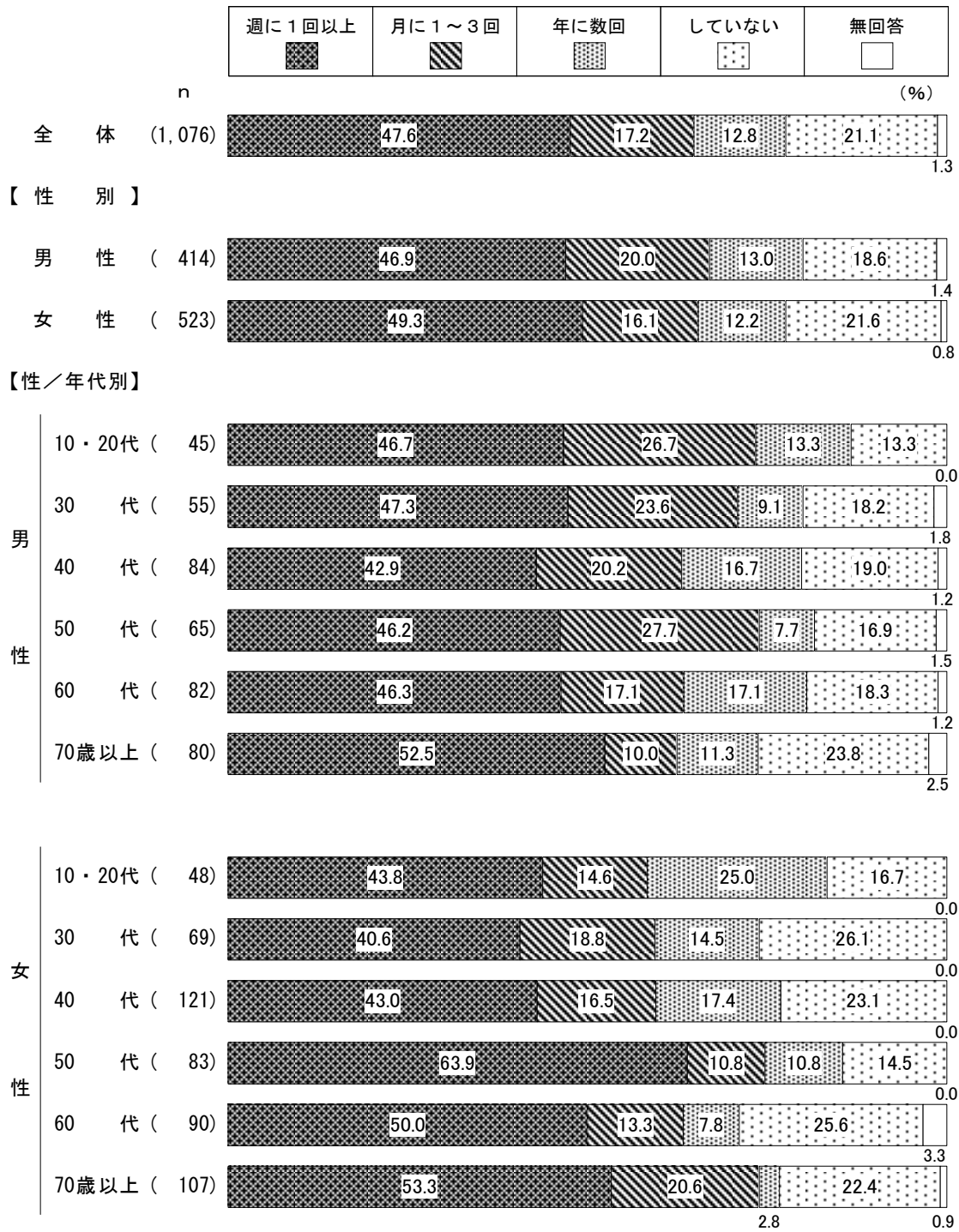
なお、運動・スポーツ活動には、ウォーキングや犬の散歩、健康・美容を目的とした身体活動や、レクリエーション活動の一環で体を動かしたり、自宅や職場での健康を意識した階段の昇り降りなども含みます。(〇は1つだけ)

図5-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(47.6%)が5割近くで最も高く、「月に1~3回」(17.2%)は2割近く、「年に数回」(12.8%)は1割を超えている。一方、「していない」(21.1%)は2割を超えている。(図5-3-1)

図5-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別

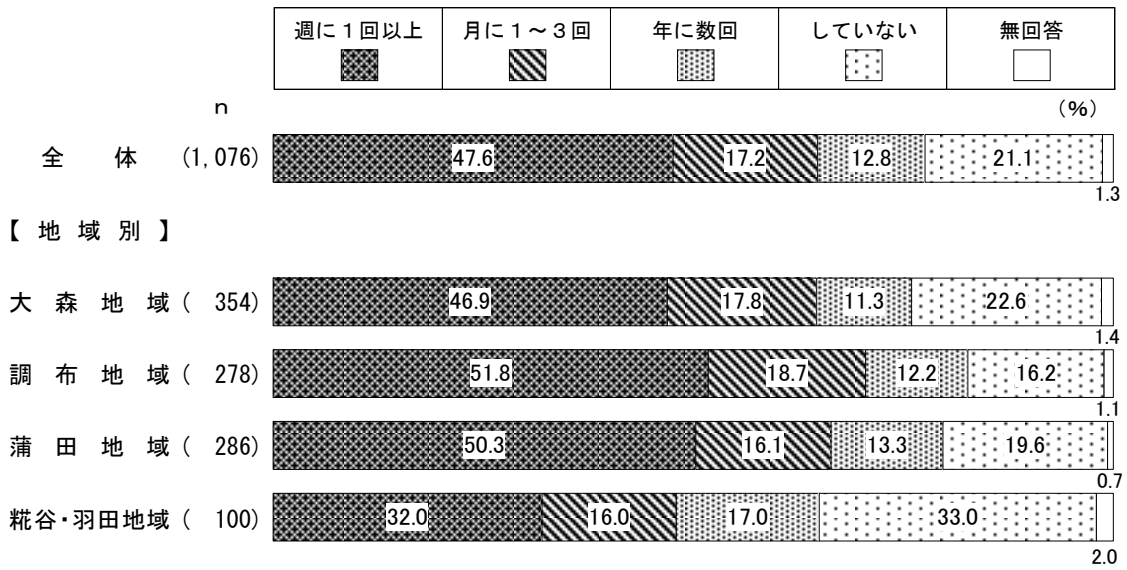


性別で見ると、「月に1~3回」は男性（20.0%）が女性（16.1%）より3.9ポイント高くなっている。一方、「していない」は女性（21.6%）が男性（18.6%）より3.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「週に1回以上」は女性50代（63.9%）で6割を超えて高くなっている。一方、「していない」は女性の30代（26.1%）と60代（25.6%）で2割半ばと高くなっている。

(図5-3-2)

図5-3-3 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度—地域別



地域別でみると、「週に1回以上」は調布地域（51.8%）と蒲田地域（50.3%）で5割台と高くなっている。一方、「していない」は糀谷・羽田地域（33.0%）で3割を超えて高くなっている。

（図5-3-3）